

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 15 日現在

機関番号：32663

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21720201

研究課題名（和文） 英語コミュニケーション意欲と異文化理解力ある経営学専攻学生育成のための実践的研究

研究課題名（英文） Developing Willing and Intercultural competent Japanese Business Students

研究代表者

Chris Weaver (CHRIS WEAVER)

東洋大学・経営学部・准教授

研究者番号：50345336

研究成果の概要（和文）：本研究ではパスワードで保護されたウェブサイトにはアップロードされた短いビデオにより、日本人経営学部学生の「異文化に対する姿勢」（“Intercultural posture”）のレベルを増やすことに効果的であったことを認めた。定期的な 15 週間に及ぶ異なる国々について学ぶセミナーにより学生の意識レベルが高まった。しかしながら学生はアジア諸国よりも北アメリカ、ヨーロッパの国々に高い興味のレベルを示した。コミュニケーション意欲のレベルに関して言えば、女子経営学部学生のほうが男子学生よりはるかに高いレベルの意欲が見られた。さらにマーケティング専攻の学生は経営学科、ファイナンス学科に比べてコミュニケーション意欲のレベルはるかに高い結果となった。

研究成果の概要（英文）：This research project found that short videos hosted on a password protected website was an effective way of increasing Japanese business students level of international posture. The students' level of interest in studying about different countries remained consistently high throughout the entire seminar course of 15 weeks. However, students did report a higher level of interest in North American and European countries compared to other Asian countries. In terms of level of willingness to communicate, this research project found that female business students had a significantly higher level of willingness compared to male students. In addition, students belonging to the department of marketing had a significantly higher level of willingness compared to students from the department of business administration and the department of finance. Finally, this research project found that students' actual use of English in a poster session related to their level of willingness. Students with higher level of willingness were more likely to ask questions to the poster presentators. Moreover, high willingness students received more positive feedback from the poster presenters, which in turn led to longer conversations in English between the business students and the poster presenters.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	800,000	240,000	1,040,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：コミュニケーション意欲、異文化理解、WTC、CALL

1. 研究開始当初の背景

本研究プロジェクトの焦点は、日本人の経営学専攻の学生が商取引の場で英語を使用する意欲を育成し、またグローバル経済においては、文化的要因がいかにビジネスの場における商取引関係を媒介する要因となるかという側面への「気づき」を高めることにある。

2. 研究の目的

本研究プロジェクトの独創性は、学生の英語の「コミュニケーション意欲」(WTC) と異文化理解力の向上のために、日本の英語教育実践の場における独自の企画と思われる「模擬取引ショー」を実施し、CALL を利用したタスク中心の言語活動がどのような有効性を持ち得るかについて、従来の研究に比してより高度な心理測定調査に基いた包括的な記述を行うことにある。同時に、カリキュラムの設計者と教授者に具体的な教育指針を与える研究となっている。

3. 研究の方法

第一に、学生の「コミュニケーション意欲」(WTC) が、英語でプレゼンテーションを行う「模擬取引ショー」の場で、学生の実際の英語使用にいかなる影響を与えるかを調査する。第二に、学生の「異文化に対する姿勢」のレベルと学生の英語使用との関係性を評価する。第三に、コンピューター支援による外国語学習が、学生の WTC レベルの向上とビジネスの場における文化の影響に対する学生の理解力を高めるために、どのように役立つかを評価する。

4. 研究成果

本研究ではパスワードで保護されたウェブサイトにはアップロードされた短いビデオに

より、日本人経営学部学生の「異文化に対する姿勢」のレベルを増やすことに効果的であったことを認めた。定期的な 15 週間に及ぶ異なる国々について学ぶセミナーにより学生の意識レベルが高まった。しかしながら学生はアジア諸国よりも北アメリカ、ヨーロッパの国々に高い興味のレベルを示した。コミュニケーション意欲のレベルに関して言えば、女子経営学部学生のほうが男子学生よりはるかに高いレベルの意欲が見られた。さらにマーケティング専攻の学生は経営学科、ファイナンス学科に比べてコミュニケーション意欲のレベルがはるかに高い結果となった。

本研究プロジェクトの結果として、教師は学生の英語のレベルとコミュニケーション意欲 (WTC) の向上を計るプログラムを作成する事が出来た。(表 1)

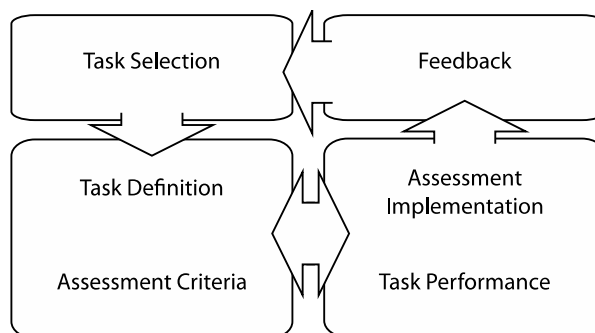


表 1。
初めに表 1 では学生の英語コミュニケーション意欲を高めるタスクを選ぶ。

学習者に言語能力を高めるタスクは、これから行うタスクの実演で彼らのコミュニケーション意欲のレベルを高める大きな機会となる。本研究プロジェクトの場合は模擬授業と模擬取引ショーを行う事により経営学部を専攻している学生のコミュニケーション意欲 (WTC) を高める結果となった。

第二のステップとして表1に学生が授業の中で何をするかを明確に表している。タスクは5つの特徴がある、(a)タスクの目標と一般的な目的(b)言語学習者に与えられる言語入力のタスク(c)タスクが表す情報の状況(d)タスクが表現される手順(e)タスクの言語学的結果。

第三のステップは判定基準の評価を定める事だ。判定基準の評価を決める時に教師は学習者がタスクの実演から何を学びたいのかに焦点を当てるべきだ。判断基準は学生がどうタスクの実演をどのようにしたか、どうしたのかにより決められる。更に判定基準は学生がタスクを完了させるのにどのように英語を意欲的に使ったかで決められる。

第四のステップは言語学習者のタスクの実演だ。

第五のステップは判定基準の評価のアプリケーションだ。教師は学生のコミュニケーション意欲(WTC)を決定づけるタイプのデータを使用すべきだ。

第六のステップは評価の繰り返しは学習者がどうコミュニケーション意欲(WTC)と言語能力を高める事が出来るフィードバックを与える。教師は言語学習者に現在の言語能力のギャップだけではなく繰り返し学んだ内容をフィードバックし焦点をあてる。

学習者に焦点をあてたフィードバックの次に、教師は表1の第一ステップに戻り、彼らの英語能力とコミュニケーションレベルを高める事に役立つ次のタスクを選ぶ。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4件)

- ① Weaver, C. (2011). Structuring communicative tasks for business administration students. 経営論集, 78, 105-119 (査読無) .
- ② Weaver, C. (2011). Optimizing the compatibility between rating scales and measures of productive second language competence. N. Brown, B. Duckor, K. Draney, & M. Wilson (Eds.), *Advances in Rasch Measurement, Volume 2*. JAM Press, Chapter 11, 239-257 (査読無) .
- ③ Weaver, C. (2010). An investigation of Toyo University's faculty of business administration students' level of linguistic and nonlinguistic English communicative competence. 経営論集, 75, 71-84 (査読無) .

[学会発表] (計 0件)

[図書] (計 1件)

- ① Weaver, C. (2010). Japanese university students' willingness to use English with different interlocutors. *Dissertation Abstracts International*. 71 (02), 231. (UMI No. 3390528)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

C h r i s W e a v e r (CHRIS WEAVER)
東洋大学・経営学部・准教授
研究者番号：50345336

(2) 研究分担者 (0)

(3) 連携研究者 (0)